



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2026. 2月第687号

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

ヨシユア記において、イスラエルの民はエリコの城壁を七日間、主の命じられたとおりに回り続けた。と記されている。この七という数は完全数であり、天地創造の完成を象徴する。すなわち、それは人の努力や力ではなく、「神の時が満ちる」という出来事を指し示す数なのだ。

民は武器を掲げて攻めたのではなかった。神の命ずるままにただ黙して歩き、ラッパの響きに耳を澄ませ、七周目の時をひたすら待ち続けた。――壁を崩したのは人ではなく、神が「満ちる時」を成就されたのである。崩れるはずのない城壁は、その時にのみ崩れ落ちた。

この「満ちる」という霊的テーマは、ヨハネ福音書に記されるイエスの最初のしるし――カナの婚礼――にも重なってくるのだ。

婚礼の宴もたけなわ、あろうことか、客人をもてなすぶどう酒がなくなってしまう。その報告を受けた時

「わたしの時はまだ来てきていない」と冷たく言い放つイエス。そこには六つの石の水がめがあった。完全数である七に一つ足りない六は、未完成、すなわち人間を象徴するとも言われている。

しかし、その六つの甕に、主は「水を満たせ」と命じ、

瞑想

七日目は朝早く、夜明けとともに起き、同じようにして町を七度回った。町を七度回ったのはこの日だけであった。

ヨシユア6:15

主幹牧師 榎本 恵

召使たちはかめの縁まで水を満たす。それは、「人がなし得ることをすべて満たしきった」というしるしであった。すると、その時、水はぶどう酒に変わった。神の業は、まさに人が従いきったその先に現れる。人間の努力の尽きるところに、神の完成が訪れるのである。

私たちは信仰者の歩みとは、まさにこれと同じであ

ろう。アシュラムセンター

五十年の歩みもまた、幾度となくこんな危機に直面した。運営においても、会計においても、高く立ちはだかる壁の前で、また全くぶどう酒に変わるようには思えない水を汲み続けながら、途方に暮れ、諦め、挫けかけた時が何度もあった。しかし、そのたびに時が満ち。主は、完全なる御業を表してくださったのだ。

今、五十一年目の年を迎え、なお目の前の壁は高く、婚礼の宴は続いている。壁はすぐには崩れず、水もたちどころにはぶどう酒には変わらない。それでも、主の命に従い、与えられた道を七度回り、空の甕に水を満たし続けるその従順の先に、神の時は必ず満ちる。

友よ、今年もまた、必ず崩れると信じ、城壁を回り続けよう。水はぶどう酒に変わると信じ汲み続けよう。満ちる時、主の創造の完成を目指して。

基夫先生、GOOD JOB! ①

築山 広子

11月25日、ピアザ淡海大会議室でのセンタ―設立50周年記念礼拝。説教者は、主幹牧師の従兄の関学の学院長、中道基夫先生。説教題は「今、再び、『心が燃える』ために」と、まるで、現在低迷し、迷走しているこの私の為の内容ではないかと、その開始を今か今かと待っていた。

実は、ここまで辿り着く途上で、私は、個人的に何の親交もない先生に失礼なる言動を発し、できればそのことはなかったものとして記憶の彼方に葬り去りたいのであるが、現実はそのよういかず、時折記憶の底からでくるとある事を思い出すたびに、まさに「汗顔の至り」で、穴があれば

飛び込みたい状況を招いてしまった事件がこのタイミングでまたまた出てきてしまい、振り払いながら、椅子に腰かけていた。

それは、忘れもしない、今を去ること10月15日のバザールカフェでのこと。私たち「婆さんトリオ」は、施設に暮らす100歳を迎えられた教会員のN塩さんにお会いすべく、まず腹ごしらえと、同行のI橋さんがボランティアをしているバザールカフェにてランチを食べていた。その時、同行のE澤さんが、「あのね、うちの孫、今年、関学に入ったのよ。」と言ったものだから、それなら講演会に是非ともと思ひ、力を込めて、しかも大声で「へえー関学。関学

と云えば、今度のアシユラムの50周年記念礼拝は、関学の学院長、モトオちゃんが説教するのよ」と続けました。「そうそうモトオちゃんよ」とI橋さん。そんなことを言い合っていると、先ほど何人かが入ってこれた中の大柄な紳士がニコニコしながら近づいて来るや否や「関学の中道と申します」と、自己紹介されたもんだから、私たち婆さんトリオは、驚くというレベルを通り越してかのオウム真理教教祖の秘儀、空中浮遊かと思うぐらい文字通りぶっ飛んでしまつて、「そうなんですか。わ、わ、私たちア、ア、ア、アシユラムなんです。」と、話題の本人を目の前にして、アワアワとやつこのこと言葉で繋げた。

親しげにモトオちゃんと呼んだが、もちろ

ん、個人的な交流もなく、お顔はチラシの写真で知ってるのみ、一方的に名前を存じ上げていただけの事なのに、したり顔で言ってしまった自分を恥じて、口から出た言葉は、戻しようがない。そうこうしているうちに笑顔の優しいその紳士は、それだけ言うと同行の方々と、部屋の向こうに行かれた。それを目で追いながら、なんということをしてしまったのだ、しまった!と思つても後の祭りとはこのこと。しかし、何で、関学の学院長が、このタイミングで、ここに現れたのか。恥ずかしいやら、申し訳ないやらで、食しているランチの味なんて味わう余裕もなく早々に平らげ、バザールを出ることにした。

(アシユラムセンター

常任運営委員)

(つづく)



◀礼拝後、台湾原住民族聖歌隊の皆様と。

日本愛修會 50周年記念会の感想

高雅雯

まず初めに、教会の派遣と祝福に心から感謝いたします。私たち5名の女性が文蘭教会を代表し、日本愛修會（アシラムセンター）50年の恵みの継続の中に立つことができました。これは単な



タロコ族の演舞（筆者中央）

る国際集会への参加の旅ではなく、神に直接導かれ、更新され、形作られる霊的な歩みでした。私は深く感じました。神はその民を形作るだけでなく、この道のりの中で、優しく私自身も形作ってくださっていることを。

今年の大会は、ゴリギャンの名画『私たちはどこから来たのか？ 私たちは何者か？ 私たちはどこへ行くのか？』を導入として用い、私たちを人生の最も深いところ、最も正直な叫びに立ち返らせました。それは単なる絵ではなく、霊的な鏡のようで、光の中で私の心の渴望、葛藤、そして真実を映し出し、再び生命を神の手に委ねるよう導いてくれました。

愛修会の恵み…私たちはどこから来たのか？

開会礼拝で、榎本恵

主幹牧師はこう語られました。「50年の間、

神の誠実さは決して離れなかった。」この言

葉は静かでありながら

力強く、光のように私

たちの立つ今日の場所

を照らししました。私た

ちは偶然ここにいては

ではなく、涙、従順、

悔い改め、信仰によっ

て多くの先人たちが耕

してきた霊的な土地の

上に立っているのだと

改めて知りました。

翌日の早朝礼拝で

は、横山勲牧師が82年

間の人生の証しを語っ

てくださいました。シ

ンプルながら深い言葉

で、「私は生涯、主の

無限の恵みと憐れみに

あずかってきた」と話

されました。それは単

なるスローガンではな

く、年月によって支え

られ、生命によって証

明された証しでした。

彼はパウロの祈りに出

てくる「刺」について

も触れ、こう語りまし

た。「神は必ずしも私

たちの痛みを取り除く

わけではない。しか

し、より深い自己を私

たちに与えてくださ

る。」その瞬間、私は

理解しました。祈りの

真の成果とは、望む通

りの事柄が成就するこ

とではなく、神の御心

の中で変えられ、服従

することをいとわない

自分であるかどうかなの

のだと。

主の言葉「私の力は

人の弱さの上で完全に

現れる」を引用された

とき、私の心にははっ

きりと分かりました—

私の弱さは失敗では

なく、神の恵みが注が

れる入口であり、私の

不完全さこそが神の完

全を示す器なのだ。

（つづく）

（台湾基督長老教會

文蘭教會）

滋賀大津 | 第20 届國際公義和平
日本愛修會 50 周年活動心得

首先、我衷心感謝教會的差派與祝福，讓我們五位婦女得以代表文蘭教會，站在日本愛修會五十年恩典的延續中。這不只是一趟參與國際聚會的旅程，更是一段被神親自引領、被更新、被塑造的屬靈行走。我深深感受到，神不只在塑造祂的百姓，也在這段路程中，溫柔地塑造我。今年大會以高更名畫〈我們從哪裡來？我們是誰？我們往哪裡去？〉作為引言，帶領我們回到生命最深處、最誠實的呼求。那不只是一幅畫，更像一面屬靈的鏡子，在光中照見我內心的渴望、掙扎與真實。也引導我再次將生命交回神的手中。

愛修會的恩典：我們從哪裡來？

榎本惠主任牧師在開幕禮拜中分享：「五十年來，神的信實不曾離開。」這句話輕聲卻有力，像一道光，照亮我們今日所站立的位置。原來，我們不是偶然來到這裡，而是站在許多前人以眼淚、順服、悔改與信心所耕耘的屬靈土地上。

隔天的早禱禮拜中，橫山勲牧師分享他 82 年的人生見證。他簡單卻深刻地說：「我一生蒙受主無盡的恩典和憐憫。」這不是一句口號，而是以歲月承托，以生命驗證的見證。他談到保羅福音中的「刺」，提醒我們：「神不一定挪走我們的痛，但祂要把更深的自己囑給我們。」那一刻，我忽然明白，福音真正的成就，不是事情是否照我所求，而是我是否願意在神的旨意中被改變、被降服。

當他引用主的話：「我的能力在人的軟弱上顯得完全。」我心裡清楚知道——我的軟弱，不是失敗，而是神施恩的入口；我的不完全，正是祂彰顯完全的器皿。

台灣基督長老教會文蘭教會
高雅雯 組妹

修道場アシラム(2025年10月)に

参加して



初めての方、懐かしい方、各地より
シメオンの風に招かれて。

山崎 太郎
大阪はバビロンで
す。

JR大阪駅から西は
高層ビルばかりです。
創世記の時代から、自
己を中心とする人間
は、建物の高さで己の
権勢を誇ってきた。
た。

大阪はソドムです。
JR大阪駅から東は
飲食店の集積地域なの

ですが、界限を歩く
と、何となくアヤシイ
と思うエリアがありま
す。出身者に聞いたと
ころ、そういう歴史の
ある所でした。

そんな資本主義どっ
ぷりの大阪に、仕事と
は言え毎日のように
通っていると、心と霊
が窒息していきます。
だから、騒々しい都市
生活を離れ、心静かに
神と向き合う時間
が、1年に1回ぐら
いは必要なのです。

湖畔の近江八幡は
カペナウムです。
アシラムが開か
れた10月9〜10日
は、ひよっとしたら
2025年で最も気
候の良い時期だった
かもしれません。あ
のどうしようもな
かった暑さが嘘のよ
うでした。

さわやかな風が吹く
中、ヴォーリス建築の
「シメオン黙想の家」
の庭に椅子を並べて、
聖書を読んで示され
たことや、祈りの課題
を分かち合った一時。
うるわしい時間でした。
心が解放され、霊に自
由が戻るのが分かりま
した。

黙想の家の一室で、
一人だけで聖書を読む
夜の1時間。静かに静
かに、時が流れていき
ました。

そのあと、庭に置か
れた椅子に、妻と座っ
て星空を見上げまし
た。虫の鳴き声以外聞
こえません。極上の時
間でした。

ヴォーリスの建築は
可憐というか、野辺の
花のように控えめとい
うか、建築家としての
自己主張が前に出てい
ないんです。

滞在中「アンナとシ
メオン」誌で知ったの
ですが、ヴォーリスは

「さらに霊的方面に
至っては、なお深い大
きな関係があつて、今
の精神修養のことばか
りでなく、心理学上か
ら考えて、吾々と住宅
とは、切っても切れな
い微妙な霊的關係があ
ります」と、書き残し
ているそうです。

建築とは個人の思想
だけでなく、信仰や霊
性までをも形にしたも
のである。そう実感し
ました。「場」の力に、
大きく助けられたア
シラムでした。

「分かったかい？」
100年の時を超え、
ヴォーリスの茶目っ気
ある声が聞こえた気が
しました。

JR近江八幡駅に戻
ると、黄金色の時間は
終わりました。

アシラムで、自分
がいかに「都会時間で
慌ただしく」聖書を読
んでいたか気づいたの
で、近江牛が牧草を反
芻するように、なるべ

くゆつくり読み、祈
り、また読み、祈ると
いうことを心がけてい
ます。時間に追われて
いる人間に、御言葉が
受肉し、霊性が養われ
るとは思えないので
す。

大阪を「バビロン
視」することもやめま
した。善し悪しで物を
見ていると、どこかで
裁く心が生まれ、自分
の心を硬直させている
ことに気づいたので
す。

心と霊が解放された
1泊2日でした。

豊かな霊的資産を残
してくれてありがと
う、ヴォーリス。リト
リートに専念させてく
れてありがとう、榎本
家と教会の皆さん。何
よりありがとう、解放
者イエス・キリスト。
すべての栄光はキリ
ストに！
(ご夫妻でご参加。50
周年記念コンサートに
も♪)

シメオンの風9 「魂のケアを受ける」 市橋 恵子

最近、書店に行くと「ケア」という言葉を使った本のタイトルをよく見かけます。「ケアとは何か」「ケアの倫理」「ケアの本質」「本音のケア」などなど。四半世紀前までは「ケア」という言葉は医療や福祉の現場で使われることがほとんどでした。時代は高齢社会となり、介護が社会化され、それと同時に今まで見えていなかった不自由さ、脆弱さ、困難さが少しずつ可視化されるにつれて「ケア」という言葉は一般社会の中で拡がりをみせ、様々な場面の中で使われ始めています。

ケアはケアをする。つまり、手当や気遣い、配慮などの行為をさしてつかわれます。その行為の向こうには、ケアをする相手があります。ケアは、例えば介護ロボットのように食事を食べさせたらその行為はそこで終わりではなく、そのことによってケアする人とケアを受ける人との関係性が生まれます。哲学者ミルトン・メイヤロフは「ケアの本質」(1971)という著書の序文に「一人の人格をケアするとは、最も深い意味で、その人が成長すること、自己実現することを助けることである」と述べています。この概念は、ケアリングという言葉で表わされます。そうであれば、私たちに最初で最高のケアリングをしてくださっているのは神様だとしみじみ思います。イエス様の愛をしてから、ずっと魂のケアを受けてきました。喧騒を離れて、静かなシメオンの廊下を歩くたびに、神様から魂のケアを受けているなという思いがわきおこります。

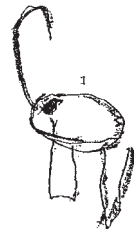


皆様お気に入りの小さな部屋。

いえじま 雑記 32 「母屋の隣」

先日、母屋の隣にある昔父が塾をやっていた離れを整理していたら、ぼくが子どもの頃に読んでいたであろう児童書が何冊か入っている段ボール箱を見つけました。ズッコケ三人組からゲド戦記まで、よく読んだのを覚えている本から、こんな本読んだんだっけと思うような本もありました。そのなかにあった『ニューヨーク 145 番通り』という本は、読んだ記憶のまったくない本のひとつ。タイトルを見た瞬間、これはニューヨークのハーレムという黒人街の話だと思い、パラパラと読んでみるとやはり、ハーレムの黒人たちが登場するヤングアダルト向けの本でした。

今、ぼくはある児童書を翻訳しているのですが、それも黒人を主人公とした物語です。小さい頃に読んだ翻訳書は、どれも白人が主人公だったなと思い、一冊くらい黒人の物語があってもいいだろうとはじめた仕事でしたが、ところがどっこい、すでにそんな物語を読んでいたようです。その何十年後かに、ハーレム近くの神学校で黒人の先生から学ぶことになる、当時のぼくに言ってもきっと信じないでしょう。まったく人生というものは、なにが起こるかわかりません。 榎本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）



♪今回からイラストはしりとりに。空兄5才画。1番目はゾウ(オ)続きは？次号に。



昨年12月。センタークリスマス礼拝後、チャイムコンサート&カフェちいろば特製カナッペ他おいしく豊かなひととき感謝!!



東京聖書教室後、クリスマス愛餐会。しみじみする会の方も共に

あとがき

二年ぶりに、ブラジル・サンパウロを訪ねることにしました。ブラジル教シユラム、そしてルージ教シユラムへの参加は、数えてみれば今回で六度目となります。二十四時間を超える長い空の旅になりませんが、体調に気をつけながら歩んでまいりたいと思います。どうぞお祈りに覚えていただければ幸いです。昨日、円安の影響もあり、海外へ出かけることは決して容易なことではありませぬ。かつては、日本のアシラムがブラジルの日系人教会を励ます立場にあったように思います。今ではむしろ、私たちの方が彼らから励ましを受けています。五十年という歳月は、時代の流れを大きく変えてきました。それでもなお、主は生きておられます。ブラジルや台湾のアシラムの友が、日本にいる私たちを支え、祈り、助けてくださる姿に、神の不思議な計画を思わずにはおれません。また、アベルモン宣教師は本年十月をもって三年の任期を終え、帰国される予定です。きつと再び、日本キリスト者を励まし、支えてくださることでしょ。

国と人との、祈りによって結ばれ、互いの支え合う。そこに働く神の経緯は、まことに計り知れないものがあります。(恵)



信仰とは、望んでいる事柄と
見えない事実と
確認することです。

ヘレン・カネー
一九九七・一九九八
和子

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

2月の聖書教室など

1(日)	ちいしば牧師記念チャペルタ礼拝 (PM5:00)
6(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00) (3月も6(金))

2月のアシュラムなど

15(日)	ブラジルアシュラム	0748-33-4030
16(月)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター
16(月)	ルー・ジラモス教会アシュラム	0748-33-4030
18(水)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター

3月以降のアシュラム予定

3/2(月)~4(水)	第43回 台湾愛修會 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
3/19(木)~21(土)	修道場アシュラム 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
4/29(水・祝)	第26回 阪神一日アシュラム	
6/6(土)	第30回 三重一日アシュラム	
6/22(土) 前後	沖縄巡礼の旅・慰霊祭	
7/20(月・祝)	第29回 福岡一日アシュラム	
8月	第2回 子どもアシュラム	
9/20(日)~21(月・祝)	第57回 九州アシュラム (アシュラム連盟)	
9/22(火)	第33回 岐阜アシュラム	
9/24(木)~25(金)	第14回 日光オリーブの里アシュラム	
9/26(土)	第52回 南町田一日アシュラム	
11/2(月)	第51回 京浜アシュラム	



←アベル門宣教師の力作。コッコッ
と通い続けている日本語学校にて
(日々の誕生日カードには絵を)



↑2026年シメオンカレンダーをご希望の方はご連絡ください。1500円
→1000円。

献金のお願い

創立50周年のため祈りお献げ下さった皆様、感謝致します。引き続きお祈りとご献金をお願い申し上げます。

キャッシュレス献金はこちらのQRコード
または「オンライン献金.com」と検索ください。
アシュラムセンター運営
記号番号 01050-6-53772



みことば



ダブルハウス庭

日本基督教団
無任所教師 江口公一

12章 「愛する人たち、すべてはあなたがたを造り上げるためなのです。」(Ⅱコリント12:19)

パウロは、自分を疑い、批判し、時に敵対するコリントの人々に向かって「愛する人たち」と呼びかけます。彼がそう呼ぶことができたのは、うめく他ない現実の中で、十字架の主の愛に生かされていたからだと思います。

12章でパウロは、自分の力や成果を語りません。むしろ、自分の弱さを誇りました。イエス様への懸命な祈りにも関わらず「とげ」は取り除かれなかった事実を語ります。むしろイエス様は「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われたのです。ここで示されている力は、人を一気に変えてしまう力ではありません。争いやねたみ、高慢や党派心、心の傷をすぐさま消してしまう力でもありません。むしろ、それらが残らざるを得ない場所に、なお留まり、なお語り、なお愛する力です。

「すべては、あなたがたを造り上げるためなのです」。これは結果の宣言ではなく、神の愛、その働きへの信頼の言葉です。私たちは、造り上げようとしてきたのかもしれません。しかし、造り上げることができなかった現実の中で、弱さを担われるキリストの中で、神ご自身が今まさに造り上げておられるという告白です。十字架につけられたキリストは、人の和解が整ってから現れたものではありません。誤解と拒絶のただ中で、弱さを負って十字架に磔にされました。そこにこそ、神の愛、神の力が現れています。

私たちは弱く、引き裂かれた現実を修復することができません。それでもなお、その中で私たちが愛し抜かれ、決して見捨てず、「あなたがた」と呼び続け、キリストの身体である教会へと造り上げていかれる方がおられます。私たちが言葉を失う場所で、苦しみの中で溢れ出るイエス様の愛に押し出されて、私たちは「愛する人たち」と語りかけるのです。



「新年初早天にて誕生者への祈り」
しかし尚、主は、私達を必ず世にうち勝っていつて下さると信じ、しっかりと歩むことができますように。詩120 恵